Osaka University Knowledge Archive

Title	人間科学部　経験社会学・社会調査法講座
Author(s)	直井, 優
Citation	大阪大学大型計算機センターニュース. 1986, 63, p. 21-22
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/65710
rights	
Note	

Osaka University Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

Osaka University

人間科学部　経験社会学・社会調査法講座

大阪大学人間科学部
直　井　　優

本講座は、講座名に表われているように、社会調査による現地調査からのデータ収集とデータ解析の方法と実際を、研究・教育することを主たる目的としている。したがって、社会調査データの蓄積やコンピューターの端末等の整備は、研究と教育のための最低条件であるが、この数年前までには、こうした条件整備はまったくなされてこなかった。

現在は、N6300モデル55ターミナルコントローラに、２台のワークステーションと２台のシリアルプリンターが接続されており、大阪大学大型計算機センターとは専用回線により結ばれている。また調査データ解析上、特定のプログラムを使用するために、センターを通じて、京都大学および東京大学の大型計算機センターとも結ばれている。本機の導入によって、センターの端末としてスクリーンコントロールが同時に２台まで使用可能であり、またワークステーション単独でワードプロセッサとして調査票を作成したり、Basic等のプログラムを利用し計算している。

人間科学部の共通計算機室には、N6500ターミナルコントローラに１台(！)のワークステーションとシリアルプリンター１台とラインプリンタ１台が接続されており、これも同様に専用回線によってセンターと結ばれている。

この数年間に、本講座では、社会調査データ、とくに社会階層、社会移動、社会意識等々の全国調査や地域調査の多岐にわたる問題領域について、調査を実施し、データを蓄積し、その数も２０を越えている。社会調査データの性質上、データ量はきわめて大規模になる傾向がある。これらのデータを利用して、種々の分析を行なっている。

分析には、SPSSまたはSPSS−X等の統計パッケージが最もよく利用されているが、社会調査のデータ解析では、カテゴリカル・データも多く、そのための独自のプログラムの導入や作成も行なわれている。また数量的データに関しても、多重指標を用いた線型構造方程式モデルのプログラムも、開発している。プログラムの規模は、大体Fortranで5,000行程度であるが、センターのFortranがFortran 77の水準を完全にみたしていないように思われるのは、筆者の誤解であろうか。

本講座での利用状況は、通常教官が30%、院生が40%、学部学生の卒業論文用が30%であるが、全体として講座独自のデータ・バンクの作成と分析結果の蓄積に用されている。11月以降、卒業論文の作成に向け学部学生の利用頻度が増大し、また夜間の利用度も増大して、通常日で約12時間稼動している。

今後、こうした社会調査データの特質を共有している講座があれば、データ・バンクの作成方法

や調査解析プログラムの相互利用などを進めて行きたいと考えている。